

出席

<委員>閑喜美史(会長)、鳥山茂(副会長)、重永晃太郎、成瀬修、田中健文、三澤恵美

<学校>赤木校長

<事務局>寺浦事務長、大井教頭、加藤教頭、田中進路指導部長

傍聴者 なし

1 校長あいさつ

2 事務局からの報告事項

- ① 保護者からの意見について
- ② 令和6年度学校経営計画の進捗状況について
- ③ 令和6年度の使用教科書について
- ④ 令和6年度学校教育自己診断について
- ⑤ 高等部3年生の進路希望状況について

3 質疑、協議

\*上記のとおり、報告等を行い、各委員から次のような質問及び意見等をいただいた。

(カッコ内は事務局等からの回答)

・保護者からの意見書について

(提出なし)

・教職員の「働き方改革」に関して、教員の業務の負担軽減には保護者の協力も必要と考える。PTA活動等を活用して、学校側からどのような協力を希望するのかなどを具体的に伝えてもらえると、よい連携がうまれるのではないか。

・「全校教育研究日」の取組を始め、本校の保護者は学校の教育活動へ理解を示し、たいへん協力的だと感じる。ぜひ、理解ある保護者を巻き込んで「働き方改革」を推進していただきたい。

・交流及び共同学習に関して、居住地校交流ではどのような内容で交流活動が行われているのか?

(地域の学校では授業に参加したり、特別活動での行事の練習等に参加したり、制作した作品を交流したりしている。)

・居住地交流の実施とともに、学部間交流の実施についても学校経営計画であらたに重点化されている。交流及び共同学習に関しては、交流によって人間関係づくりや豊かな人間性のはぐくみを進めるという側面と、教科等のねらいの達成を目的としていっしょに学ぶという共同学習の側面がわかちがたいととらえることが大切である。そのようなとらえのもと、居住地校交流と校内での学部間交流等を別々の取組と考えるのではなく、本校における交流及び共同学習の一環ととらえれば、校内外の取組をあわせた形で指標化できるのではないか。教員の負担の軽減につながると考えられるので、今後、ぜひ検討いただきたい。

・教科書選定については、毎年、児童生徒の発達段階に応じて、適切な選定が行われていると考えている。今後は、小学部、中学部及び高等部の同じ教科等の使用教科書の内容について系統性を考えていただくと、児童生徒にとってより適切な教科書の選定が行われると考えるので研究願います。

- ・学校教育自己診断の質問項目の精選について、項目を絞ることにより「わからない」という回答が減少すると予想されるので、精選について了解したい。
  - ・高等部3年生の進路指導に関して、現在未定という生徒の指導はどのように進めているのか。  
(保護者と連携しながら、生徒本人の希望に沿うよう、進路指導を進めている。)
  - ・企業への就労希望があったら、どのような情報提供を行っているのか。  
(これまで本校から就労した実績のある企業等を紹介し、高2で体験実習を行っている。)
- 今年度は就労継続支援B型事業所への希望が多いが、なぜこのような傾向になったのか。  
(就労継続支援B型事業所の新設があり、選択肢が増えたことが理由の一つと考えている。)

#### 今後の予定

第3回 令和7年(2024)1月28(火)10:00～ 本校図書室にて